

# MASSIVE & SPORTINESS



「REGAL」から注目のニューモデルが登場した。2017年モデルとして「REGAL」が久々に投入したフライブリッジモデル「REGAL 42 Fly」。よく知られたエクスプレスクルーザーとはひと味もふた味も違う、シックな装いを纏ったアメリカン・サロンクルーザー。この最新「REGAL 42 Fly」のシートライアルを、フロリダ・キーラーゴの沖合で行った。マックス34ktをマークするニューカマーの魅力を紹介しよう。

text: Takayuki Kijima  
photo: Kai Yukawa, REGAL MARINE  
special thanks: REGAL MARINE  
REGAL JAPAN  
<http://regalboats.jp>



## REGAL 42 Fly



## 10年ぶりに登場した「REGAL」渾身のフライブリッジモデル 豪華なインテリアにIPS600搭載が魅力の、ニューアメリカンサロンクルーザー

アメリカのボートビルダー「REGAL(リーガル)」は、1969年の創業以来、中型～小型クラスのエクスプレスボートを数多く作り続けてきた。特に小型ランナバウトには定評があり、JD Powerをはじめとしたさまざまな賞に輝いている。アメリカの独立系ビルダーとしては最大規模を誇り、一貫して家族経営を続けており、独自の設計や自由な発想による新たな機構など、アメリカの大手プロダクションボートビルダーの中でも一風変わった地位を築いている。「REGAL」のラインナップはほとんどがエクスプレスクルーザーだが、2017年モデルで目を引くのはアウトボードモデルとフライブ

リッジモデルの投入だ。

「REGAL」のフライブリッジモデルは、過去にさかのぼっても極めて少ない。21世紀に入ってからは、2003年にデビューした「3880 Sedan Bridge」と、2007年デビューの「4080 Flybridge Sedan」の2艇種のみ。今回の「42 Fly」は、2017年モデルとして新たに開発されたプランニューだ。

この「42 Fly」のデビューと同時に、同じハルをベースとしたハードトップモデル「42 Grand Coupe」も登場している。「REGAL」の本拠地フロリダ州には、マイアミやフォートローダーデールなど、







入り組んだ水路と多数の橋脚が並ぶエリアが数多くある。橋脚の多くは開閉式だが、都度連絡して開けてもらう必要があるため、どうしても待ち時間が多くなる。それを嫌う同地のオーナーたちには全高の低いエクスプレスやハードトップが重宝される。「42 Fly」の姉妹艇「42 Grand Coupe」は、そういった位置づけのモデルだ。

\*

「42 Fly」は、従来の「42 Sport Coupe」と比べるとわずかにハルサイズが小さくなっているが、フライブリッジが付いたため重量は約3トン増加している。そして室内空間そのものは逆にかなり広くなった。特にミジップに設けられたアフステートルームは素晴らしい空間だ。ヘッドクリアランスも十分あり、フルサイズのキング

ベッド(ツインベッドへの変換も簡単に行える)を配置。バウ側のフォワードステートルームにはクイーンサイズのベッドを配している。「42 Fly」および「42 Grand Coupe」は、ロープロファイルの「42 Sport Coupe」とは部屋数もボリュームもまるで違う別のボートに仕上がっている。

この、2部屋あるロアフロアにもギャレーが設けられている。ギャレーの前にはメインサロンへのステップがあるが、このエリアを「REGAL」はオープン・エア・アトリウム(Open Air Atrium)と呼んでいる。アトリウムとは本来、ガラス屋根などで覆われた大規模な空間のこと。ちょっと大げさな気もするが、かなり開放感のあるエリアであることは間違いない。

メインサロンは全体に採光性を考えた作りで、全方向のウィンドウが広い面積を占める。右舷前部にはロアステーション。サイドウィンドウはかなり低い位置(シート座面から20cm程度)まで伸びており、操船者には非常に広い視野が確保されている。後部にはカウンターとラウンジテーブル&ソファのセットが設けられている。秀逸なのはサロンのドアだ。ガラス製のエンクロージャードアはフルオープンし、メインサロンとアフコックピットが完全に一体化する。アフコックピットにはL字型の大型ソファが設けられており、サロンと合わせてひとつのスペースとして利用できる。近年、ヨーロッパのサロンクルーザーでも多く見られるレイアウトだ。

アフコックピットのアクセスステップを上るとフライブリッジ



フライブリッジのコンソール廻りは、必要なものをコンパクトに配置し、至ってシンプルに纏められている。上質な高級感に満ちた、REGALの新しいウオリティだ。

へ。フライブリッジは後部へ張り出しアフコックピットの上部をほぼ覆っている。こちらかなりの広さがあり、最前部にはアッパーステーションが配置されている。オーニングの取り付けも可能だが、見た日にはかなり雰囲気が変わって見える。パワートレインにはVOLVO PENTAのIPS 500、またはIPS 600を採用している。

今回のシートライアルは、フロリダ州キーラーゴ沖、ビスケーン湾内で行われた。試乗艇のパワートレインはVOLVO PENTA D6 IPS600、435馬力×2基。当日の海面は至ってフラットなコンディション。巡航速度はおよそ28kt、トップスピードは34ktをマークする。42フィートのフライブリッジモデルとしては十分な速度性能だ



考え抜かれたキャビンレイアウトとシートアレンジ。他のモデルを見ても、いつも感心させられることが多いREGALのインテリアワーク。そのREGALのアイデンティティが、この「42 FLY」にも見事に凝縮されている。







ろう。全体にIPSらしいリニアな動きが特徴だった。

\*

サイズを考えると、従来の「REGAL」では考えられない比類ない広さと豪華さを併せ持つ「42 Fly」。マリーナステイからロングレンジのクルージングまで、これからの海での遊びを広げてくれるボートとなりそうだ。ハードトップよりもフライブリッジモデルが好まれる日本での需要も期待したい。「REGAL」2017年モデルの二つのキーワード、「アウトボード」と「フライブリッジ」。彼らの主要マーケットである北米とヨーロッパのトレンドをうかがわせるが、これは日本のマーケットにも通じているように思う。新たな挑戦に向かって進化する「REGAL」。今後発表されるモデルについても期待が膨らむ。P.B.



2ステートルームと本格的なギャレが備わるダウンスペース。シンプルなモダンデザインで纏められた室内は、白とブラウンを基調にしたコンビネーションで、明るく清潔感のある雰囲気を出している。

**SPECIFICATIONS . . . . . REGAL 42 Fly**

全長 12.8 m  
 全幅 3.96 m  
 喫水 1.1 m  
 重量 12.47 ton  
 エンジン 2 × VOLVO PENTA D6 IPS600  
 最高出力 2 × 435 HP  
 燃料タンク 977 l  
 清水タンク 235 L  
 問い合わせ先 リーガル・ジャパン  
 TEL: 079-322-8800  
 http://regalboats.jp



YouTube